

16日 水曜

使徒

22:17 それから私がエルサレムに帰り、宮で祈っていたとき、私は夢心地になりました。

22:18 そして主を見たのです。主は私にこう語られました。『早く、急いでエルサレムを離れなさい。わたしについてあなたがする証しを、人々は受け入れないから。』

22:19 そこで私は答えました。『主よ。この私が会堂ごとに、あなたを信じる者たちを牢に入れたり、むちで打ったりしていたのを、彼らは知っています。』

22:20 また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私自身もその場において、それに賛成し、彼を殺した者たちの上着の番をしていたのです。』

22:21 すると主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす』と言われました。』

22:22 人々は彼の話をごここまで聞いていたが、声を張り上げて言った。「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない。』

22:23 人々がわめき立て、上着を放り投げ、ちりを空中にまき散らすので、

22:24 千人隊長は、パウロを兵営の中に引き入れるように命じ、なぜ人々がこのように彼に対して怒鳴っているのかを知るため、むちで打って取り調べるように言った。

22:25 彼らがむちで打とうとしてパウロの手足を広げたとき、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むちで打つてよいのですか。』

22:26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長の



ところに行って報告し、「どうなさいますか。あの人はローマ市民です」と言った。

22:27 そこで、千人隊長はパウロのところに来て言った。「私に言いなさい。あなたはローマ市民なのか。」パウロは「そうです」と答えた。

22:28 すると千人隊長は言った。「私は多額のお金でこの市民権を手に入れたのだ。」パウロは言った。「私は生まれながらの市民です。』

22:29 そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、すぐにパウロから身を引いた。千人隊長も、パウロがローマ市民であり、その彼を縛っていたことを知って恐れ

パウロの救いと、召命の証しです。証しの中には複数のクリスチャンが出てくる場合がありますが、それこそ神様の導きと言えるでしょう。人が救われるためには、誰か1人だけに「お世話になった」というものではなく、様々な人がそのために役割を果たしているのです。それによって背後に神様が働いておられるということがわかります。バルナバに加えて12節のアナニヤもその1人です。ステパノも間接的に用いられたと言えるでしょう。救いが1人の功績であるかのように伝わらないように注意する必要もあるでしょう。

パウロが生まれながらのローマ市民であるということは、両親もまたローマ市民であったということです。パウロはタルソ出身ですが、その地域または祖先が皇帝に対して何らかの貢献をし、それと与えられたと考えられています。

彼はこのような特権を自分のためには用いませんでした。ましてや自慢もしませんでした。ただ主の使命のために用いたのです。

私たちはそれぞれ何かしら有利な立場や権利を持っているものです。社会的なものもあれば人間

関係によるものもあるでしょう。それを主のために用いるべきです。または用いられないだろうか、いつもチャンスを見つけるべきです。

それらは主の目的のために主から与えられているのですから、そのために用いないと無駄にしてしまうでしょう。取り上げられないとも限りませんが、それを恐れるからではなく、主の前進を喜びとするゆえに用いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

